

## 留守家庭児童育成室の統合に係る保護者説明会 要旨

### 【開催日時】

令和6年2月16日（金） 午後7時30分～午後8時40分

### 【市出席者】

堀 地域教育部次長、坪野 放課後子ども育成室参事、中村 同参事、山下 同主幹

### 【社会福祉法人光聖会 出席者】

森本 事務局長、福長 学童リーダー、李 主任指導員、唐木 指導員

### 1 【吹田市・社会福祉法人光聖会からの説明】

吹田市：本日の流れについて、まずは運営事業者である社会福祉法人光聖会の紹介をさせていただきます、2番目として安心して統合に向かえるようにということで、4点挙げています。既に山五・山三の指導員を交えて打合せを進めており、これから検討していくことも多いですが、現時点での検討状況を報告させていただきます。3番目に、山五・山三育成室の状況について、主に山三育成室の保育内容を紹介させていただきます。実際に山三育成室で保育に当たっている指導員からも、現場の様子などをお伝えさせていただきます。最後4番目は、令和6年度の山五育成室の保育ということで、来年度の保育に当たっての基本的な考え方をお示しします。

それでは、1点目、山三育成室運営事業者の紹介について、社会福祉法人光聖会から説明させていただきます。

事業者：社会福祉法人光聖会の母体となるのは、光聖寺というお寺です。その下に三つの法人があり、その一つである社会福祉法人光聖会では、認可保育所やこども園等の運営を行っており、現在、25か所ほどの児童・子供に関する施設を運営している法人です。本部は大阪の天王寺区にあります。

次に、法人の理念としては、お寺が母体と申し上げましたが、慈しみの精神で利他行を通して社会に貢献するという理念の基、法人運営を行うとともに、保育というところにおきましても、互いに手を携え、誰もが分け隔てなく支え合うことのできる人間の根っこを育てることを大切に、保育園、学童ともに運営に当たっています。

次に、法人概要・事業実績について、先ほど25か所という数字をお伝えしましたが、私どもが運営する初めてとなる認可保育所を吹田市で出ささせていただいたという繋がりもあり、複数の施設を運営させていただいています。学童

では、千里丘北育成室と、山三育成室の2か所を受託運営しています。令和6年度4月からは、青山台育成室と千二育成室の2か所の育成室の運営もスタートするというので、4つの育成室を運営する準備を進めているところです。その他にも、北千里児童センターも運営させていただいています。

次に、山三育成室の保育についてですが、子供たちが学校から帰って来ると、基本的には宿題をまずしようねと声をかけています。その後、私どもの独自の特色にはなりますが、宿題プラスアルファとして、そろばんに取り組む時間を設けています。そろばんについては、強制ではありませんが、宿題の後に少しだけということ、比較的多くの子供たちが取り組んでいます。職員が教えるというのではなく、タブレットを用意し、キャラクターがそろばんを教えてくれるといった形で取り組んでいます。

そして、おやつ提供については、16時ぐらいの時間帯が多いですが、メニューとしては、日替わりでパンやおにぎり、乾き物のお菓子等を提供しています。誕生日会の日、ケーキを用意して特別感を出し、それをみんなで食べて楽しむなど、お楽しみ要素を取り入れながら提供しています。

また、長期休業中には育成室でお弁当を提供する日を設けています。保護者の皆様には毎日お弁当を作ってくださいですが、少しでも負担軽減となるよう、1日でも2日でもということ、こちらでお弁当を業者に手配し提供しています。同じお弁当をみんなで食べるということ、子供たちはすごく楽しみにしていたり、保護者の皆様も1日でもお弁当を作らなくてよい日があると助かるというお声をいただいています。

また、大学のボランティアサークルと連携をして交流する機会を持ったり、私どもの法人は保育園等も運営しており、いろいろな外部の先生との付き合いもありますので、夏休みの一日保育の際には、体操の先生をお呼びして、外遊びの幅を広げるような取組をしたり、外国人の先生に来ていただいて、楽しく一緒に英語を使って遊んだり工作したりという時間を持ったりしています。また、夏祭りとして、すずめまつりというものを実施しました。こちらは、子供たちが自主的にどんな夏祭りをしたいのか、どんな出し物をしたいのかを考え、やりたいお友達が集まって、それをやっていくといった取組で開催しまして、非常に楽しんでいる様子を見ることができました。このほか、遠足やデイキャンプ、クリスマス会などの季節の行事等を年間通じて楽しんで行っています。

次に、今年度からコドモンという保護者連絡ツールを導入しています。こちらは、連絡帳の代わりといった位置付けとなり、保護者の皆様からの出欠の連絡を24時間どこからでもスマートフォンから送っていただくことができるシステムになっています。また、児童の登室・降室をリアルタイムでお知らせす

ることができます。子供たちが育成室に登室すると、自分でQRコードをタブレットにかざしてくれます。そうすると、保護者の方にメールでリアルタイムに登室・降室の連絡が届くような仕組みも持ち合わせています。更に、日々の写真もコドモンから見ていただけますので、今後も活用していく予定です。

最後に、私どもの体制について、令和6年度から4つの育成室を運営していくこととなりますが、千里丘北育成室と山三育成室、そして、青山台育成室と千二育成室というのがエリア的に近いため、例えば、職員が急に不足した際や助けがいる時には、それぞれ二つの育成室が連携しながら、安心安全に運営していける体制を取りながら運営していく考えです。

簡単ではございますが、私どもの方から法人の御紹介としてお話をさせていただきました。

吹田市：続きまして吹田市から、安心して統合に向かえるようにということで、4点を説明させていただきます。

1点目、令和6年度の職員体制について、統合に向けて、お子さんの気持ちに丁寧に寄り添う必要性があり、また、交流事業や引継ぎ等への対応も必要となるため、山五育成室に職員を追加配置することを考えています。なお、山三育成室についても、令和6年度以降、統合後も含めての体制になりますが、体制について事業者と協議をしているところです。吹田市としても追加配置が必要と考えていますので、業務内容や必要人数を整理した上で、事業者へ配置をお願いしていきます。

2点目、引継ぎなどということで、3点挙げています。まずは、山三育成室の指導員が山五育成室を訪問し、日常の保育や行事などを適宜視察していきます。その上で、個人引継ぎということで、山五育成室の指導員から山三育成室の指導員に児童一人ひとりについて情報提供していきます。時期については、令和7年1月頃と考えています。指導員が資料を作成するためにも一定時間がかかるため、この時期で設定しており、直営から民間委託に移行する場合もおおよそ同じスケジュールで進めています。最後に、山三指導員による個人面談を令和7年2月頃に行いますので、この頃までには先ほど申し上げた個人引継ぎを終えた上で、面談していくこととなります。

3点目、交流事業について、まずは、考え方として両育成室の児童が仲良くなることが必要だと思いますので、遊びを中心にこれから内容を検討したいと考えています。時期については、年度当初の4月から5月は、それぞれの育成室において、まずは新しい生活に慣れる必要があると考えていますので、早くて令和6年6月頃から年度内に複数回実施したいと考えています。場所につきましても、山五・山三育成室の両方で実施を予定しており、それぞれの育成室の指導員が付き添う、出かけて行く方の指導員も一緒に付いていくという形で考

えています。

4点目、通学路の安全対策についてですが、まずは、学校教育部の方で学校の通学路を検討しているところです。今後、関係部局も含めて協議をしていくこととなりますので、その際には、17時以降に育成室から下校することも踏まえて、育成室として街灯の設置を要請していきたいと考えています。

続きまして、山五育成室・山三育成室の状況として、項目ごとに比較しながら主に山三育成室の内容を御紹介できればと思っています。

まず、集団づくりという観点ですが、山五では班活動を中心に4年生がリーダーとして行事を進めていたり、4年生会議というような活動をされていますが、山三育成室では班編成はなく、日々のリーダー当番の活動なども学年問わず順番に実施をしています。ただ、4年生が低学年のフォローをしたり、行事の企画等で4年生がリーダーシップを発揮していくことは山五と同様となっています。山三育成室の様子について、子供たちの様子も含めて事業者から補足していただければと思います。

事業者：山三育成室ではクラスの中に班を設ける形ではなく、クラス全体を一つの集団として考えて運営しています。子供たちは、同級生や異年齢での集団を自発的に作って日々活動しています。学年を問わず、日替わりでリーダーとおやつの当番を担当することが代々受け継がれてきており、4年生や3年生が低学年の子供たちのお手本となって、リーダーの役割を実行しています。サポートが日々必要な児童もおり、4年生が中心に低学年をサポートするなどして、低学年もその姿を見て自然にリーダーの役割をこなしています。行事やイベントなどの際には、子供たちの発表会などを計画して、主にクラス活動で発表しています。各学年の子供たちからの発表を4年生が中心となって引っ張ってくれており、運営の核になってくれる姿があります。行事企画で4年生がリーダーシップを発揮するのは山五育成室と同様です。

吹田市：続いて、主な行事については、集団づくりと関係のある核となる取組を掲載しています。山五育成室では、デイキャンプで班活動を中心にして、どろんこキッズフェスタでは要求別の取組として、子供たちがやりたいことを設定してその取組ごとにグループで準備等の活動をし、全体を通して4年生が会議等で話し合いをしたり、それぞれお互いを認め合える場を設定している状況かと思えます。山三育成室について、季節の行事や、土曜保育に合わせた親子参加型行事（ふれあいクラブ）といったものを実施されていますので、そういったところを内容や目的について、事業者から説明していただければと思います。

事業者：7月の夏季遠足について、令和5年度はキッズニアに行きました。主な目的としては、子供たちがいろいろな職業体験ができることが良いところであり、事前に地図を配付し、グループで周る順番等を相談して計画を立てることが一

つの目的でした。実際に行った際にも、予定通り進まなかったり、思っていた以上に時間が余ったりなどといったことがあり、子供たちにとってもすごく良い経験になったと思っています。

また、8月のすずめまつりについては、要求別の取組として設定していますが、こちらに関しては、実際にまつりでどんな遊びがあるのかというところから、子供たちと一緒に考えていきながら集団を作り、そのグループで射的やスーパーボールすくいなど、本当に夏祭りのような雰囲気の子供たちで作っていく行事になります。

デイキャンプについては、火や包丁を使用するため、3、4年生限定のお楽しみイベントとして実施しました。令和5年度は、千里丘北育成室との合同保育として実施しました。グループを作り、その中で役割を決めて野菜を切ったり、釜戸で火を起こしたりなど、時間内にカレーづくりから片付けまで子供たちが主体的に行いました。1、2年生は、高学年がいない育成室でいつもと違う遊びを楽しみました。

3月にはお別れ遠足を予定しています。異年齢の学年の子供たちが、交流を通じて自己認識や思いやりを育むことをねらいとして、お別れ遠足を行っています。今回は王子動物園に行く予定で、自然や動物に触れ合う機会を得て、公衆道徳も学べるように電車で行く予定です。

卒室式については、みんなで門出を祝い、新しいステージに進む重要なイベントだと考えています。目的としては、卒室生への感謝と思い出の共有、そして成長と自己認識、新たなスタート・ステージへの準備に向けて卒室式を準備しています。

このように、いろいろな行事を通じて、子供たちの成長を見られることが私たちの喜びでもあります。

また、ふれあいクラブに関しては、学期に1度、土曜日保育の日に保護者の方をお招きし、懇談会も日程を合わせて行っています。6月の1回目では親子ドッジボール大会を行いました。2回目では、運動場が広く使えるということで、フラフープ等を使ったリレー大会を開き、3回目では、逃走中をすずめカラーに変えながら取り組みました。

吹田市：ふれあいクラブに関しては、保護者交流にもなっているということで、例えば、今後の交流事業の一環として、山五の児童や保護者の方にも参加してもらおう機会になるのではと考えています。

続きまして、生活・遊び・おやつというところで、違いとしては、けん玉は、山五は1人1個ですけれども山三では共有で行っています。おやつは、月額料金は同じですが、発注先が違うところになっています。また、17時の一斉下校については、山五は地域別のグループで送り出していますが、山三は、地域

別ではありませんが、任意のグループで送り出しをしているところです。一斉下校については、直営育成室でも場所によって方法が異なっています。

続きまして、教材費について、現状の情報を記載しています。山五育成室は月500円で保護者会費から集めていただいています。山三育成室は、月1,000円で事業者が徴収しており、昼食提供や遠足代等にも使用しています。ただ、令和7年度から教材費の公費負担化を予定しており、これまで保護者会に負担をおかけしていた教材費について、育成室の運営に必要な経費であるということで、令和7年度からは市での負担を考えています。議会にも予算提案をしているところです。その結果、公費負担化をした後は、原則、毎月の教材費の徴収というのとはなくなりますが、これまで事業者独自の取組として行ってきた昼食提供や遠足に係る費用については、別途実費で徴収していく可能性はございます。

続きまして、その他として、山三における連絡帳につきましては紙のノートではなく、令和5年度からコドモンの機能だけで運用されていると聞いています。学級懇談会は年3回ということですが、これは仕様書の中で、各学期1回程度と規定をしています。また、直営も基本的には学期に1回程度という同じ考えで行っていますが、育成室によってこれも違いがあるところがございます。

令和6年度の山五育成室の保育について、統合前の1年をどのように過ごすのか不安等あるかと思いますが、基本的には山五育成室の取組は変わらず実施をしていただこうと思っています。各種行事や4年生の活動も引き続き行ってもらいたいと考えています。ただ、交流事業や統合に向けた準備というのが追加で必要となってきます。また、4年生の活動というのは引き続き行うと申し上げましたけれども、逆に3年生以下、特に1年生は1年で違う環境に変わりますので、スムーズに統合に向かえるように、山五育成室の指導員や山三育成室の指導員、それから放課後子ども育成室が連携をしていきたいと考えています。子供の意見を聴く必要性もあるかと思いますが、児童の意見や気持ちなどにつきましては、現在も指導員が声をかけたり、聴き取りをしていると思いますが、引き続き時期を見て、声を聴いて行きたいと考えています。

資料については以上となります。今後について、本日は説明会ということで開催しましたが、通常の民間委託、直営から委託に移行する場合でも前年度に2回懇談会を開催しています。本日の説明会を受けて、質問や御意見にお答えする場も必要と考えていますので、時期については、新学期が始まってからの両育成室の状況にもよりますが、改めて御案内したいと考えています。また、交流事業の予定などについても、今後決まってきたタイミングで御案内させていただきます。

最後に、山五・山三の状況を比較して説明させていただきましたが、基本的には事業者運営を委託していますので、統合後の運営内容というのは山三育成

室の内容が基本になります。ただ、事業者には山五の児童がどのような環境で過ごしているのかをよく理解してもらった上で、児童を迎え入れてもらいたいと考えています。先程、指導員を通して児童の意見なども聴いていきたいと申し上げましたが、そういった内容についても事業者と共有して、統合後の運営の参考にしていきたいと考えています。最後にそれらも踏まえて、光聖会さんからコメントをいただければと思います。

事業者：山五と山三育成室の統合ということになりますが、今、吹田市様からお話がありましたように、これから交流をしたりですとか、統合していくに向けて、私ども指導員が山五育成室の様子をしっかりと見させていただいたり、そこから学ばせていただきたいと考えています。現在、直営の千二育成室の引継保育にも当たらせていただいております、そこからも、良い取組などたくさん学んでいます。それと同じように山五育成室からも学ばせていただきたいという気持ちで考えていますので、いろいろなことを知っていく1年間を一緒に過ごさせていただけたらと思っています。いろいろと御不安になる部分もあるかと思いますが、そういった気持ちで一生懸命取り組ませていただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2【質疑応答】

保護者：説明を聞いて、魅力的な話がたくさんあり、安心できると感じましたが、いくつか疑問がありますのでお伺いさせていただきます。

1点目、児童数の推移について、山三育成室のクラス数を見ていると、64人を2クラスに分けて、1クラス当たり32名ずつだと思いますが。この児童たちが年にどれぐらい退室してしまうのか、教えていただけますでしょうか。

2点目、先生方がどのような職員体制で保育をされているのか、人数や、年度をまたいで勤務されるのか、引継ぎが毎年されているのか教えてください。

吹田市：1点目、児童数の推移ということで、どのタイミングで退室したか、細かい時期まではわかりませんが、4月の時点の児童数が64人、最新の2月時点で61人となっています。継続率というのは、学年によってどう変わっていくか、直営も委託も含めてかなりばらつきがありますので、参考程度で御理解ください。

事業者：2点目、現在2クラスを運営しており、正職員が3名、その他の人員はすべて非常勤の補助員という形になり、補助員は1日に4、5名が勤務しています。法人としても、職員には退職をしないで継続して勤務してほしいと考えており、例えば様々な声を聴くアンケートを取るといった仕組みや、リーダーが職員のしんどい部分がないかの聴き取りや面談をしながら、長く勤めてもらえる環境づくり努めているところです。

保護者：1点目、退職者がいないように職員のフォローをされているということですが、退職者がなかった場合は、同じ学童に継続して勤務されるという理解でよろしいですか。

2点目、配置されている職員の学童での経験年数と保有資格等を教えてください。

事業者：1点目、基本的に退職するという意向がなければ、その育成室で働き続けてもらうという考え方になります。ただ、例えば、職員の育成を目的として、経験を他に積むことが有効と考えるケースにおいては、異動はあり得ることでありますが、そういったケースでなければ、基本的な考えとしては同じ育成室で長く経験を積み、子供を見続けられる体制が理想であると考えています。

2点目、すみません、大まかな経験年数になってしまいますが、正規職員3人のうち、1人は8年、1人が約10年、1人が児童館等の経験も含めて約5年となります。資格については、保育士資格、教員免許等になりますが、3人とも放課後児童支援員資格を所持しています。

保護者：学童だけの経験年数を教えてください。

事業者：学童だけの経験年数で言いますと、1人は8年、1人は1年ですが、幼稚園の先生等も含めて先ほど10年とお伝えしました。それから、もう1名はおよそ3年が学童の経験と記憶しています。今お伝えしたのは、令和5年度の体制についてとなります。令和7年度の体制については確定していない状況になりますので、次の機会等でお伝えできるタイミングになりましたら、経験年数等はお話させていただきます。

保護者：1点目、山三育成室の保育の状況を山五育成室の保護者が見学する機会をつくっていただけますか。

2点目、保育内容として、基本的に山三に合わせるという考えもあると思いますが、山五の保護者の希望や要望をお伝えする機会は、今後設けられるのでしょうか。

吹田市：1点目、見学についてはまだ正式に決めてはいませんが、交流事業を行う中で見学というのも入ってくると考えています。ふれあいクラブという機会や普段の日常を見る機会も当然あると思いますので、そういったことは今後検討する中で考えていきたいと思っています。

2点目、原則は山三の運営が基本になると考えていますが、その中でも希望や要望は当然あると思います。子供たちにとっても山五のこういうところが好きなどといった意見も今後聴いていくのと、保護者の皆さんでも御意見があれば一旦は市でお聴きしたいと思っています。検討状況については、来年度に報告していく形になると考えています。

保護者：夏休み等の1日保育時の朝の登室時間は何時からなのか、土曜日は運営して



いるのか教えてください。

吹田市：夏休み等の長期休業期間中の登室時間について、山三育成室については、直営の8時半というところに対して8時からの開室となっています。土曜保育や代休日等の1日保育は8時半からとなっており、長期休業期間中のみということでお間違えないようにお願いします。土曜日については、直営と同じで第4土曜日の月1回となっています。

保護者：教材費については、月額1,000円と説明がありました。夏休みの昼食提供も行われるとのことですが、別費用ではなく、教材費の中から提供されるのであれば、月額1,000円は安いと思いますし、遠足でキッザニアに行かれるとのことでしたが、別途費用を負担しなければいけない機会があるのかを教えてください。

事業者：夏休みの昼食提供については、毎日提供するには当然お金が足りないので、夏休み期間で4回、週1回程度を教材費の中から捻出して提供しているのが現状の取組です。ただ、保護者の方からもう少し日数を増やせないのかと言ったお声もあり、どのように増やしていけるのか検討しているところです。また、遠足に関しましては、キッザニアに行きたいという子供の声から実現しましたが、積み立てだけでは少し足りなかったため、別途3,000円程度徴収をさせていただくということで、保護者の皆様に御意見を伺った上で実行しました。ただ、来年度から4施設での運営ということになりますので、みんなで遠足に行くには制約が出てしまうというところで、別の場所の選定等を行っているところです。

保護者：1点目、適正化に向けた説明会の時にも、統合によって子供が登室できなくなり、親が仕事を辞めなければいけないということが起きたときに、どのように責任をとっていただけるのかという質問をさせていただいています。その時にお答えいただいたように、統合後のトラブルは、山三育成室の指導員に丸投げということではなく、市としてもしっかり対応して下さるということで間違いないでしょうか。

2点目、令和6年度の活動は、変わらず実施と説明がありました。統合に向けての交流活動等を考えたときに、指導員の先生の負担がかなり増えてしまうのではないかと考えています。配置を増やすというお話がありましたが、その配置の人数と、統合を踏まえて引き続き活動を維持するために、適切な指導員が配置されるのかどうか、教えていただきたいと思っています。

吹田市：1点目、まずは現場の指導員の方で対応していくことにはなりますが、統合ということで、当然普段より丁寧に対応しないといけないとは思っていますので、例えば、追加で人的な加配をするなどのことは今後検討していきたいと思っています。また、環境の変化によるケアについては、申し訳ありませんが、育

成室としてはそういう心理的なケアのできる専門職を配置できませんので、その辺りは学校と連携するなどして、スクールカウンセラーの活用等を必要に応じて御案内することも含めて対応していきたいと思います。事業の実施主体は市であり、最終責任は市にありますので、そこは変わらず引き続き市の事業ということで対応させていただきたいと思います。

2点目、職員の配置については、現状のできる限りの対応として、補助員2名の配置を考えています。結果的に2教室分の配置ということになります。交流事業等を行っていく中で、十分とさせていただけるかは分かりませんが、現在の市の全体の体制を踏まえた上で、統合への対応と待機児童解消の両面から考えた上では、でき得る範囲の配置と考えています。指導員にこれ以上負担をかけにくいこともありますので、その辺は山三の指導員の協力も得ながら、放課後子ども育成室も一緒に連携をしたいと思っていますので、そこも指導員だけに負担がかからないように考えたいと思っています。

本日の説明会を終了します。 （終了）